

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
博多メディカル専門学校		昭和53年3月1日		大峰 礼子		〒812-0044 福岡市博多区千代4-32-1 (電話) 092-651-8001																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人博多学園		昭和40年8月12日		八尋 太郎		〒813-0041 福岡市東区水谷1-21-1 (電話) 092-672-5080																													
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																											
医療		医療専門課程		臨床工学技士科		平成10年文部省 告示第179号																													
学科の目的		臨床工学技士国家資格の取得。医療機器・設備について幅広い知識を身に付け、チーム医療の中で安全な医療を実行できる人間性豊かな臨床工学技士を養成する。																																	
認定年月日		平成27年2月17日																																	
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験	実技																								
3年		昼間		111単位		86単位		4単位		21単位																									
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																									
120人		91人		0人		6人		23人		29人																									
学期制度		■前期: 4月1日～ 9月30日 ■後期: 10月1日～翌3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出欠考慮)・実習成績																											
長期休み		■学年始: 4月 1日～4月 7日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月24日～1月 7日 ■学年末: 3月21日～3月31日				卒業・進級 条件		・出席日数 4/5 以上 ・成績評定 可 以上 ・授業料他諸納付金 完納 上記該当者を職員会議にて認定																											
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談を行い、自覚を促すなどの指導。また、教務主任・担任にて保護者を召喚家庭での状況調査等を行う。				課外活動		■課外活動の種類 体験入学学生アシスタント、学生会(文化祭・卒業記念パーティー)、清掃ボランティア、職業認知度啓発活動 ■サークル活動: 無																											
就職等の 状況※2		■主な就職先・業界等(令和5年度卒業生) 大学病院、総合病院、医療機器メーカー ■就職指導内容 ・就職セミナーの開催 ・面接指導 ・履歴書作成指導 ■卒業者数 43 人 ■就職希望者数 37 人 ■就職者数 36 人 ■就職者数(関連分野): 36 人 ■就職率 : 97.3 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 83.7 % ■その他 大学編入(臨床工学技士関連) 1名 (令和 5年度卒業者に関する 令和6年5月1日 時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>②</td> <td>43人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>第2種ME技術実力検定</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>第1種ME技術実力検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>J検(情報活用試験3級)</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>B検(ビジネス能力検定3級)</td> <td>③</td> <td>43人</td> <td>40人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	臨床工学技士	②	43人	38人	第2種ME技術実力検定	③	43人	38人	第1種ME技術実力検定	③	7人	2人	J検(情報活用試験3級)	③	43人	41人	B検(ビジネス能力検定3級)	③	43人	40人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
臨床工学技士	②	43人	38人																																
第2種ME技術実力検定	③	43人	38人																																
第1種ME技術実力検定	③	7人	2人																																
J検(情報活用試験3級)	③	43人	41人																																
B検(ビジネス能力検定3級)	③	43人	40人																																
中途退学 の現状		■中途退学者 2名 ■中退率 1.8 % 令和 5年4月 1日時点において、在学者113名(令和 5年4月7日入学者を含む) 令和 6年3月31日時点において、在学者111名(令和 6年3月8日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ・体調不良 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・教員による個人面談 放課後を利用した補習 保護者連絡・面談 カウンセラーによる面談等																																	
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 制度内容: 成績優秀者奨学金制度 里帰り奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 令和5年度の給付実績者数 8人																																	
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																	
当該学科の ホームページ URL		https://www.hakata.ed.jp/hakatamedical																																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①医療機器・医療設備について幅広い知識と技術を体得し、チーム医療の中で安全な医療を実行できる、人間性豊かな臨床工学技士を養成するカリキュラムを編成する。
- ②臨床工学技士として必要な知識と技術取得のため、講義と実習を相互に関連づけた実践的な科目を設置する。
- ③2年次より病院と連携し臨床実習を設定する。設定にあたっては、2年次、3年次と知識・技術の習得段階に沿ったカリキュラムとする。を深めながら、患者や医療2年次では、臨床工学の知識従事者とのコミュニケーション力を体得させる。3年次では、臨床工学全般の知識・技術をもとに、総合的・実践的な能力を深める。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校内部の組織として、有識者と管理職、監督職をメンバーとし、科のカリキュラムについて検討を行う。科の作成したカリキュラム案を基に、委員会がカリキュラム改善に向けた意見を提案する。それらの意見を踏まえて最終案を作成し再度委員会で検討のうえ、職員会議で最終決定する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
千代島 雅志	日本体外循環技術医学会九州地方会 理事 社会医療法人天神会 新古賀病院 臨床工学課	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	②・③
小野沢 聡	フクダ電子西部北販売株式会社 営業部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	③
浦田 英明	社会医療法人財団白十字会 臨床工学部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	③
杉本 膳寿	福岡東ほばしらクリニック マネージャー 博多メディカル専門学校 非常勤講師	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	
村上 美紀	博多メディカル専門学校 副校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	
池永 栄	博多メディカル専門学校 臨床工学技士科 教務主任	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(1月、2月)

(開催日時(実績))

令和5年度 第1回 令和6年2月6日(金) 19:00～21:00

第2回 令和6年3月12日(火) 19:00～20:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

令和5年度のカリキュラム改定に向けて、ガイドライン変更の趣旨や実習指導に係る最新情報を編成委員と確認した。その上で、カリキュラム変更についての助言をいただき、カリキュラム構築および実習指導者・実習病院への説明についての準備を進めた。また、令和4年度中にカリキュラム改定のための臨時教育課程編成委員会の開催を実施することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①学校において学習した臨床工学技士業務を医療の実践と結びつけながら理解を深め実践能力養うために、病院等での臨床実習を通して臨床工学技士として必要な知識・技能・態度を身につける。
- ②直接患者や医療従事者と接することにより、患者の全人的理解や医療の論理観、コミュニケーション能力を培う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

臨床工学技士に必要な基礎的な実践能力を養う。具体的には、医療機器の構造や操作方法、データの読み方、最新機器の情報など、臨床工学技士に必要な医療機器に関わる専門的知識・技術を習得する。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	血液浄化療法、集中治療室、手術室、医療機器管理業務の臨床実習を通して、臨床工学技士に必要な基礎的な実践能力を学習する。	飯塚病院、福岡徳洲会病院、福岡和白病院、佐賀大学医学部付属病院、聖マリア病院 他 計29施設
生体機能代行装置学実習	人工呼吸器や心電図モニター、人工ペースメーカーなどの構造や操作方法、データの読み方、最新機器の情報など、臨床工学技士に必要な医療機器に関わる専門的知識・技術を習得する。	フクダ電子西部北販売株式会社 日本光電工業株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規定に基づき、年間計画を立て実施・派遣する。

①日本臨床工学会、日本臨床工学技士会、日本臨床工学技士教育施設協議会、福岡県臨床工学技士会、日本臨床工学技士教育研究会、福岡県専修学校各種学校協会など、業界団体・学術団体主催の研修・学会に積極的に参加させ、専門技術の向上と指導力を養成する。

②校内で実施される外部業者の臨床工学技士向けのセミナーに参加させ、専門技術の向上を図る。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修」(告示研修)

期間:令和5年4月1・2日 対象:参加2名

内容:静脈路確保・薬剤投与、動脈表在化穿刺・表在化静脈への穿刺、心・血管カテーテル電氣的負荷、鏡視下手術視野確保

研修名:「日本透析医学会」

期間:令和5年6月16～18日 対象:参加1名

内容:シンポジウム、ワークショップ

研修名「福岡県臨床工学会」「九州・沖縄臨床工学会」

期日:令和5年11月4・5日 対象:参加6名

内容:専門分野別セミナー、一般演題、シンポジウム

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「日本臨床工学技士教育施設協議会 総会・教員研修会」

期間:令和5年6月3・4日 対象:参加2名

内容:特別講演、一般講演、総合討論

研修名:「日本臨床工学技士教育施設協議会教育委員会 教員学術研究会」

期日:令和5年9月23日 対象:参加6名

内容:特別講演、一般講演、シンポジウム

研修名:令和5年度 博多メディカル専門学校教職員研修会(年度末)

期日:令和6年3月29日 対象:教職員全員

内容:「スクールカウンセリングについて」(吉村温子先生)

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「福岡県臨床工学会」

対象:参加7名

研修名:「福岡県臨床工学技士会セミナー」

対象:参加1名

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「日本臨床工学技士教育施設協議会 社員総会および教員研修会」

対象:参加3名

研修名:「日本臨床工学技士教育施設協議会 養成教員学術研究会」(対面・WEB)

対象:参加7名

研修名:令和6年度 博多メディカル専門学校教職員研修会(夏期・冬期)

期間:令和6年7月30日・12月25日(予定) 対象:教職員全員

内容:「若者の理解と専門学校教育」(植上一希先生) 他

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の学校運営が教育方針や学校運営規則に沿って適切に行われているかを、企業関係者、業界関係者、卒業生等の学校関係者から、学校自己評価に対する意見や評価を受けることで判定し、学校運営の課題・改善点を見出すことで、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公開することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像、職業教育の特色、地域社会のニーズを踏まえた学校の将来構想 他
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針の策定、運営方針に沿った事業計画の策定、学校運営上の各種規程の整備状況 他
(3) 教育活動	目標設定、カリキュラムの体系的な編成、授業評価の実施・評価体制等教育方法・評価、資格試験、教職員
(4) 学修成果	就職率の向上体制、資格取得率の向上体制、退学率の低減対策、卒業生・在校生の社会的な活躍等の把握他
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制、学生相談に関する体制、学生に対する経済的な支援体制、卒業生への支援体制 他
(6) 教育環境	施設・設備の整備体制、実習施設・インターンシップ等の教育体制の整備、防災に対する体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	高校等への情報提供体制、学生募集活動の適正性、募集活動における教育成果等の正確な伝達 他
(8) 財務	中長期的な学校の財務基盤の安定性、予算・収支計画の有効性・妥当性、会計監査の適正性、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護対策、自己評価の実施と問題点の改善 他
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設等を活用した社会貢献・地域貢献活動、学生のボランティア活動の奨励・支援 他
(11) 国際交流	国際交流についての体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

スクールカウンセラーの増員だけでなく、定期的なスクールカウンセラーの学校訪問等による予防的な活動の必要性を確認した。令和5年度から試行を開始し、今後の学生・教職員フォローに向けた運用を進めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
石松 弘行	株式会社アイディック 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員 卒業生
古賀 直子	一般社団法人 福岡県歯科衛生士会 副会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
篠崎 陽介	しのぎ歯科医院 副院長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
下田 英津子	一般社団法人福岡県臨床工学技士会 副会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員 卒業生
武部 愛子	福岡こども短期大学 特任教授 福岡市教育委員会 教育委員	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

ホームページ 毎年9月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校教育方針、国家試験取組み状況、就職取組み状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者、保護者など学校関係者に広く情報を提供し、学校運営の透明性を図るとともに、本校をより深く知っていただく一助とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念、学園指針、学校校訓、教育方針、学校沿革
(2)各学科等の教育	成績評価、卒業資格、教育目標、カリキュラム、国家試験合格率、卒業者数、就職実績
(3)教職員	教職員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	病院・診療所等での実習、企業との連携授業、インターンシップ
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士によるカウンセリング、学生マンション等賃貸業者紹介
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、学費サポートシステム
(8)学校の財務	財政収支計算書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	姉妹校(韓国 釜山カトリック大学)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ、パンフレット、募集要項

URL:<https://www.hakata.ed.jp/hakatamedical/info.php>

授業科目等の概要

(博多メディカル専門学校 医療専門課程 臨床工学技士科) 令和6年度(令和5年度以降入学生 [1,2年次])														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			倫理学	様々な社会問題の検討を通じて倫理学の基本的論点を概観し、ディスカッションなどを通して自ら考える力を養う。	1前	24	1	○			○		○	
○			社会学	身近な社会現象に着目しながら、社会学の知識や見方・考え方を学習する。	1後	24	1	○			○			○
○			心理学	心と体の関係を正しく理解し、ストレス社会に対応できるストレスセルフケアを習得する。	1後	24	1	○			○			○
○			物理学	高等学校の物理の知識を振り返りながら、医療機器の原理・作用を理解するために必要な物理的知識を学習する。	1通	48	2	○	△		○		○	○
○			数学	高等学校の数学の知識を振り返りながら、臨床工学に必要な数学の考え方と計算方法を学習する。	1前	48	2	○	△		○		○	○
○			化学	高等学校の化学の知識を振り返りながら、生化学、基礎医学、薬理学を学ぶために必要な化学の基礎を学習する。	1前	24	1	○			○		○	○
○			外国語	英会話を通して病院内で使用する医療英語を学習する。 また、TOEICのスコアアップを目指す。(3年生)	1前	24	1	○			○			○
○		2前			24	1	○			○				○
○			コミュニケーション論	社会人になるにあたって必要なマナーや医療現場で求められるコミュニケーション力を体得する。 臨床導入として病院見学を実施する(1年)。 臨床実習事前マナー講座を実施する(2年)。	1通	24	1	○		△	○		○	○
○		2通			24	1	○		△	○		○		○
○			日本語表現法	文章を読み取る能力や作成する能力を深め、臨床実習で求められるレポートやお礼状の作成力を拾得する。	1後	24	1	○			○		○	○
○			解剖生理学	臨床工学技士として必要な生体の解剖(構造)と生理(機能)の基礎知識を学習する。	1前	96	4	○			○		○	
○			医学演習 I	1年次に履修した解剖生理学と臨床医学総論に関して、国家試験過去問題等を利用した問題を通して演習を行い、人体の仕組みと疾患について理解を深める。	2前	24	1		○		○		○	

○		医療学概論	医学の発展、医療技術の発展、医療従事者の倫理などについて学習する。	1 後	24	1	○			○		○	
○		病理学概論	臨床工学技士と関わりが深い主な疾病の病理学像と検査について学習する。	2 前	24	1	○			○			○
○		臨床生理学	臨床で行われる生理学検査を学び、疾病と生理機能の関連について理解を深める。	2 前	24	1	○			○			○
○		臨床生化学	生体における代謝の基礎及びその疾病検査との関連について学習する。	2 前	24	1	○			○			○
○		臨床薬理学	臨床で使用される薬剤の作用機序、適応、副作用などを学ぶ。	2 後	24	1	○			○			○
○		公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、公衆衛生の分野について学習する。	2 後	24	1	○			○			○
○		基礎医学実習	臨床工学技士に必要な臨床基礎技術を習得する。計測機器を通して人の構造及び機能の理解を深めることを目的とし実習を行う。	2 前	40	1				○	○		○
○		微分積分学	高等学校の数学の知識を振り返りながら、臨床工学に必要な数学と計算方法の知識を更に深める。	1 後	24	1	○			○			○
○		電磁気学	臨床工学に必要な電気と磁気に関する電気物理学について学習する。	1 後	48	2	○			○			○
○		工学演習Ⅰ	国家試験の過去問題などを通して、電気工学、電磁気学に関する知識の理解を深め、定着を図る。	1 前	24	1				○	○		○
○		基礎工学実習	臨床工学に関係する様々な電気回路や電子回路について実習を通して理解を深める。	1 前	40	1				○	○		○
○		電気工学	医療機器の原理を理解するにあたって必要な電気工学の基礎知識を学習する。	1 前	48	2	○			○			○
○	2 前			24	1	○			○				
○		電気工学実習	電気工学の基礎知識を実習を通して理解を深める	1 後	40	1				○	○		○
○		電子工学	医療機器の原理を理解するにあたって必要な半導体を中心とした電子回路論を学習する。	2 通	48	2	○			○			○
○		電子工学実習	電子工学の基礎知識を実習を通して理解を深める。	2 通	40	1				○	○		○

○		医用機械工学	医療機器の機械的機構の動作原理を理解するために必要となる医用機械工学の基礎知識について学習する。	2通	48	2	○			○								
○		情報処理工学	計算機の原理や信号処理など情報処理の基礎知識を学習する。また情報処理活用試験やITパスポートの取得を目指す。	1通	48	2	○			○								○
○				2前	24	1	○			○		○						
○		情報処理工学 実習	ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト等の操作を通してパソコンの基本的スキルを学習する。発表会を通してプレゼンテーションの基礎スキルも習得する。	1後	40	1			○	○								○
○		医用工学概論	医療機器を操作するために必要となる原理をはじめ歴史から機器の特徴まで、医療機器の全体像を学び臨床医療における医療機器の役割について学習する。	1通	48	2	○			○								○
○		生体物性工学	工学的な観点から生体の特性について学習する。	2後	24	1	○			○								○
○		医用材料工学	医用材料を取り扱うにあたり必要な材料に関する特性や安全性を学習する。	2後	24	1	○			○								○
○		計測工学	生体計測機器を通して、生体機能に関する計測方法とデータ処理法を理解しながら、計測に利用される工学的基礎知識を学習する。	1前	24	1	○			○								○
○		医用治療機器学	治療に用いられる医療機器の原理、構造、使用法、安全管理、保守について学習する。	1後	24	1	○			○								○
○				2前	48	2	○			○		○						
○		生体計測装置学	生体計測の特殊性を理解し、各種生体計測機器の原理、構造、使用法、安全管理、保守について学習する。	1前	24	1	○			○								○
○				2後	48	2	○			○		○						
○		臨床支援技術学	医療機械を介した臨床支援が必要とされる症例の病態や検査・治療法の実際、手技について理解を深め、実践的知識・技術を習得する。	2前	24	1	○			○								○
○		臨床支援技術学 演習	輸液ポンプやシリンジポンプを用いた薬剤投与、静脈路の確保に必要な手技を取得する。	2前	40	1	○			○								○
○		生体機能代行装置学Ⅰ	生体代謝系代行装置として、血液浄化装置を中心にその種類、構造、特性、適応について学習する。	1後	24	1	○			○								○
○				2前	24	1	○			○		○						
○		生体機能代行装置学Ⅱ	生体循環系代行装置または補充装置として、人工心肺装置を中心にその種類、構造、特性、適応について学習する。	2後	24	1	○			○								○

○		生体機能代行装置学Ⅲ	生体呼吸系代行装置として、人工呼吸器を中心にその種類、構造、特性、適応について学習する。	2後	24	1	○		○	○			
○		生体機能代行装置学実習	血液浄化装置を中心に原理、構造、使用法、安全管理法、保守点検の実際を実習する。	1後	40	1		○	○	○	○		
○			血液浄化装置、人工心肺装置、人工呼吸器を中心に原理、構造、使用法、安全管理法、保守点検の実際を実習する。	2通	80	2		○	○	○	○	○	
○		医療安全管理学	医療機器を安全に操作、管理するにあたって必要な機器や病院設備の規格や関連法規を学習する。	1後	24	1	○		○	○			
○				2通	48	2	○		○	○			
○		臨床医学総論	臨床工学技士の業務に必要な臨床医学知識を幅広く学習する。消化器学、腎・泌尿器学、感染症学に関して学習する。	1後	48	2	○		○	○	○		
○				2通	72	3	○		○	○			
○		病態治療学	医学を学ぶにあたって必要な医療用語や内科学の基礎を学ぶ。様々な医療従事者と病院の仕組み、患者権利など医療従事者として働くにあたって必要な倫理や知識を学ぶ。	1後	24	1	○		○	○	○		
○				2前	24	1	○		○	○			
○		臨床実習	血液浄化療法、医療機器管理業務の臨地実習を通して、臨床工学技士に必要な基礎的な実践能力を学習する。	2後	120	3		○	○			○	
○		臨床工学総論	国家試験で出題された問題を通して1年間履修した全科目の総復習を行い、臨床工学の基礎の理解を深める	1通	24	1	○	△	○	○			
○			国家試験で出題された問題を通して2年間履修した全科目の総復習を行い、臨床工学の基礎の理解を深める	2通	24	1	○	△	○	○			
1・2年次 合計					46	科目	78	単位	(2,064時間)				
3力年合計					58	科目	111	単位	(3,000時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席すべき時間の5分の4以上出席していること。 ・履修すべき科目の成績評定がすべて可上であること。 ・授業料、その他諸納付金を完納していること。 以上に該当する者について、各科の職員会議に附して卒業を認定する。(学則第35条)		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(博多メディカル専門学校 医療専門課程 臨床工学技士科) 令和6年度 (令和4年度以前入学生)																		
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携			
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任				
○			倫理学	様々な社会問題の検討を通じて倫理学の基本的論点を概観し、ディスカッションなどを通して自ら考える力を養う。	1前	24	1	○			○			○				
○			社会学	身近な社会現象に着目しながら、社会学の知識や見方・考え方を学習する。	1後	24	1	○			○				○			
○			心理学	心と体の関係を正しく理解し、ストレス社会に対応できるストレスセルフケアを習得する。	1前	24	1	○			○				○			
○			物理学	高等学校の物理の知識を振り返りながら、医療機器の原理・作用を理解するために必要な物理的知識を学習する。	1通	48	2	○	△		○					○		
○			数学	高等学校の数学の知識を振り返りながら、臨床工学に必要な数学の考え方と計算方法を学習する。	1通	48	2	○	△		○					○		
○			化学	高等学校の化学の知識を振り返りながら、生化学、基礎医学、薬理学を学ぶために必要な化学の基礎を学習する。	1前	24	1	○			○					○		
○			生物学	人体に対する関心を深めながら、解剖生理学に必要な基礎知識を学習する。	1前	24	1	○			○			○				
○			外国語	英会話を通して病院内で使用する医療英語を学習する。 また、TOEICのスコアアップを目指す。(3年生)	1通	48	2	○			○					○		
○		2通			48	2	○			○							○	
○		3前			24	1	○			○							○	
○			コミュニケーション論	社会人になるにあたって必要なマナーや医療現場で求められるコミュニケーション力を体得する。臨床導入として病院見学を実施する。	1通	24	1	○		△	○					○		
○		2通			24	1	○			△	○			○	○			
○		3通			24	1	○			△	○			○	○			
○			解剖生理学	臨床工学技士として必要な生体の解剖(構造)と生理(機能)の基礎知識を学習する。	1通	96	4	○			○			○	○	○		

○		基礎医学演習	国家試験の過去問題などを通して、生体の解剖（構造）と生理（機能）に関する知識の理解を深め、定着を図る。	2前	24	1		○	○	○								
○		病理学概論	臨床工学技士と関わりが深い主な疾病の病理学像と検査について学習する。	2前	24	1	○		○									
○		基礎医学実習	心臓・呼吸・腎臓の解剖生理について実物や生理反応を通して構造・機能の理解を深める。また、臨床現場で行われるシツ交換、移乗等の基礎技術を実習する。	1後	40	1			○	○	○	○	○					
○			病理学に関する内容では病変組織について演習を通して構造的、機能的、形態的に理解を深める。生理学に関する内容では、心電計・脳波計・血圧計等の機器操作を通して生体機能の理解を深める。また、臨床実習に望むにあたり必要な基礎技術や患者対応を実習する。	2前	40	1			○	○		○	○					
○		医学概論	医学の発展、医療技術の発展、医療従事者の倫理などについて学習する。	1前	24	1	○			○			○					
○		臨床生理学	臨床で行われる生理学検査を学び、疾病と生理機能の関連について理解を深める。	2前	24	1	○				○							○
○		臨床生化学	生体における代謝の基礎及びその疾病検査との関連について学習する。	2前	24	1	○				○							○
○		臨床免疫学	免疫血清学及び各種免疫の概要、輸血検査などについて学習する。	3前	24	1	○				○							○
○		臨床薬理学	臨床で使用される薬剤の作用機序、適応、副作用などを学ぶ。	2後	24	1	○				○							○
○		看護学概論	患者に接するにあたって要求される基本的態度、考え方などを学習する。	1後	24	1	○				○							○
○		公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、公衆衛生の分野について学習する。	3前	24	1	○				○							○
○		疾病治療学	臨床現場で見られる代表的な疾患の病態生理と症候、治療に関する理解を深める。	2後	24	1	○				○							○
○				3前	24	1	○					○						
○		微分積分学	高等学校の数学の知識を振り返りながら、臨床工学に必要な数学と計算方法の知識を更に深める。	1後	24	1	○				○							○
○		電磁気学	臨床工学に必要な電気と磁気に関する電気物理学について学習する。	1通	24	1	○				○							○

○		医用工学概論	医療機器を操作するにあたって必要な原理をはじめ歴史から機器の特徴まで、医療機器の全体像を学び臨床医療における医療機器の役割について学習する。	1通	48	2	○			○	○			
○		生体物性工学	工学的な観点から生体の特性について学習する。	2通	48	2	○			○	○			
○		医用材料工学	医用材料を取り扱うにあたり必要な材料に関する特性や安全性を学習する。	3前	24	1	○			○	○			
○		計測工学	生体計測機器を通して、生体機能に関する計測方法とデータ処理法を理解しながら、計測に利用される工学的基礎知識を学習する。	3前	24	1	○			○			○	
○		先端技術工学	新しい医療技術や機器など先端技術を学び、高度化する医療現場への対応力の育成する。	3通	24	1	○			○	○	○	○	
○		医用治療機器学	治療に用いられる医療機器の原理、構造、使用法、安全管理、保守について学習する。	1後	24	1	○			○	○			
○			治療に用いられる医療機器の原理、構造、使用法、安全管理、保守について学習する。	2前	48	2	○			○	○			
○		生体計測装置学	生体計測の特殊性を理解し、各種生体計測機器の原理、構造、使用法、安全管理、保守について学習する。	2前	48	2	○			○	○			
○		生体計測装置学	生体計測の特殊性を理解し、各種生体計測機器の原理、構造、使用法、安全管理、保守について学習する。	3前	24	1	○			○	○			
○		医用機器学実習	生体計測装置、医療治療機器の原理、構造、使用法、安全管理法、保守点検の実際を実習する。	3前	80	2				○	○	○	○	
○		生体機能代行装置学Ⅰ	生体代謝系代行装置として、血液浄化装置を中心にその種類、構造、特性、適応について学習する。	1後	24	1	○			○	○			
○				2前	24	1	○			○	○	○		
○		生体機能代行装置学Ⅱ	生体循環系代行装置または補充装置として、人工心肺装置を中心にその種類、構造、特性、適応について学習する。	2通	24	1	○			○	○			
○				3前	24	1	○			○	○			
○		生体機能代行装置学Ⅲ	生体呼吸系代行装置として、人工呼吸器を中心にその種類、構造、特性、適応について学習する。	2後	24	1	○			○	○			
○				3前	24	1	○			○	○			
○		生体機能代行装置学実習	血液浄化装置を中心に原理、構造、使用法、安全管理法、保守点検の実際を実習する。	1後	40	1				○	○	○		
○				2通	80	2				○	○	○	○	○

○			人工心肺装置、人工呼吸器を中心に原理、構造、使用法、安全管理法、保守点検の実際を実習する。	3前	120	3			○	○	○	○		
○		医用機器安全管理学	医療機器を安全に操作、管理するにあたって必要な機器や病院設備の規格や関連法規を学習する。	2通	48	2	○		○	○				
○				3通	24	1	○		○	○				
○		医用機器安全管理学実習	医療機器を安全に操作、管理するにあたって必要な保守点検や安全対策を実際に計測器を作成して実習する。	3前	40	1			○	○	○			
○		リスクマネジメント論	医療事故対策など危機管理を踏まえて、臨床工学技士に要求される基本的姿勢、考え方を学習する。	3前	24	1	○		○				○	
○		臨床医学総論	臨床工学技士の業務に必要な臨床医学知識を幅広く学習する。消化器学、腎・泌尿器学、感染症学に関して学習する。	1後	48	2	○		○		○	○		
○			臨床工学技士の業務に必要な臨床医学知識を幅広く学習する。循環器学、血液・内分泌学、呼吸器学、代謝学に関して学習する。	2通	72	3	○		○		○			
○			臨床工学技士の業務に必要な臨床医学知識を幅広く学習する。手術部医学、集中治療学、神経学に関して学習する。	3通	48	2	○		○		○	○		
○		臨床実習	血液浄化療法、医療機器管理業務の臨地実習を通して、臨床工学技士に必要な基礎的な実践能力を学習する。	2後	90	2			○		○			○
○			集中治療室、手術室、医療機器管理業務の臨地実習を通して、臨床工学技士に必要な基礎的な実践能力を学習する。	3後	90	2			○		○			○
○		臨床工学総論	国家試験で出題された問題を通して1年間履修した全科目の総復習を行い、臨床工学の基礎の理解を深める	1通	24	1	○	△		○		○		
○			国家試験で出題された問題を通して2年間履修した全科目の総復習を行い、臨床工学の基礎の理解を深める	2通	24	1	○	△		○		○		
○			国家試験で出題された問題を通して3年間履修した全科目の総復習を行い、臨床工学の基礎の理解を深める	3通	144	6	○	△		○		○		
合計					54科目		109		単位 (2, 972時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席すべき時間の5分の4以上出席していること。 ・履修すべき科目の成績評定がすべて以上であること。 ・授業料、その他諸納付金を完納していること。 以上に該当する者について、各科の職員会議に附して卒業を認定する。 (学則第35条)		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。